

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.8
Q1 室内環境			0.40					2.7
1 音環境		3.6	0.15	-	-			3.6
1.1 騒音		4.0	0.40	-	-			
1 1 室内騒音レベル	室内許容騒音レベル45とした。	4.0	1.00	3.0	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-			
1 1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音	床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板を採用	4.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		2.0	0.35	-	-			2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-			
1 1 室温		3.0	0.38	3.0	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-			
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		2.6	0.25	-	-			2.6
3.1 昼光利用		1.8	0.30	-	-			
1 1 昼光率		1.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
1 1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-			
4 空気環境		3.3	0.25	-	-			3.3
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-			
1 1 化学汚染物質	F をほぼ全面的に採用した。	4.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		2.3	0.30	-	-			
1 1 換気量		3.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	3.0	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-			
1 1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.1
1 機能性		3.2	0.40	-	-			3.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40	-	-			
1 1 広さ・収納性	執務スペース = 11.0/m <sup>2</sup>	4.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-			
1 1 広さ感・景観		3.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-			
3 内装計画		3.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-			
1 1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	フロア毎にSKを設置、トラップ取外可等。	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1 1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.33	-	-			
1 1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		1.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VLP、排水(汚水、雑):VP、Eは不使用。	5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	熱源を電気、ガスとした。地震対策として吊配管とした。 節水機器(便器、混合水栓)の採用。配管の系統を区分。 非常用電源の設置。電源設備は地下設置をしない。	3.6	0.19	-	-	-
	2	給排水・衛生設備		4.0	0.20	-	-	-
	3	電気設備		4.0	0.20	-	-	-
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.1	0.29	-	-	3.1	
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり	3.4	0.31	-	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	3.0	0.60	3.0	-	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.40	3.0	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.31	3.0	-	-	
3.3 設備の更新性	1	空調配管の更新性	3.0	0.38	-	-	-	
	2	給排水管の更新性	3.0	0.17	-	-	-	
	3	電気配線の更新性	3.0	0.11	-	-	-	
	4	通信配線の更新性	3.0	0.11	-	-	-	
	5	設備機器の更新性	3.0	0.22	-	-	-	
	6	バックアップスペース	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5	
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9	
1 建物の熱負荷抑制			PAL低減率 = 20.5%	4.0	0.30	-	4.0	
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0	
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	-	
3 設備システムの高効率化			ERR=45.6%	5.0	0.30	-	5.0	
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)			ERR=45.6%	5.0	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9	
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1 節水			節水機器(便器、混合水栓)を採用した。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.63	-	-	2.7	
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.21	-	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			4.0	0.25	-	-	-	
OAフロアを採用した。			4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4	
1 地球温暖化への配慮			LCCO2排出量 = 66%	4.3	0.33	-	4.3	
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			4.0	0.25	-	-	-	
ゴミ種類の把握をし、分別ゴミ箱の設置スペース確保、有価物の事業回収			4.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	